

# 6月30日、ウルグアイ・南大西洋皆既日食

編集部

本年第1号でお知らせしたように、6月30日、南米ウルグアイからアフリカ沖にかけて、南大西洋で皆既日食が起きた。この日食は昨年ハワイ・メキシコ日食と違い、観測可能な地域が限られると同時に、その天文学的および気象条件がきわめて悪い。そのため、計画されたツアーや遠征した人数はごく僅かであった。ここではまだ情報が完全に集約できてはいないが、一通り全体の様子をながめてみよう。

今回、観測ツアーとして国内で広告が出たのは以下の通りである。

(1) 日本通運(株)大手町旅行支店主催、月刊天文ガイド後援

- ・ 6月27日(土)～7月6日(月)、9泊10日
- ・ 観測地：ウルグアイ、プンタデルエステ
- ・ 638,000円(全朝食、夕食1回つき)、イグアス滝・リオ観光つき、

(2) 阪急交通社神田支店主催

- ・ 6月27日(土)～7月6日(月)、7泊10日
- ・ 観測地：ウルグアイ、プンタデルエステ
- ・ 598,000円(全食事つき)、各都市観光つき

このうち、(2)は成立しなかったようで、日本からの団体ツアーは(1)だけであった。また、団体によらず個人的に観測に出かけた人も別稿のように少数ながらいて、日本からウルグアイに遠征したのは、上記(1)のツアーを含めて30人に満たないと思われる。

また、ウルグアイを避けて航空機による観測を選んだのが、別稿のように3人だった。従って、今回の日食に挑んだ日本人は、多く見積って30人強ということだろう。個人的に観測された方のレポートをお待ちしている。

各地の結果は、一部の天文雑誌ですでに紹介されているが、ここではもう少し範囲を広げてみよう。

## <陸上観測>

ウルグアイでは、雨期にもかかわらず前日の29日には好天で、日の出も見ることができた。当日30日にも、上空は雲がなかったが、東の水平線上に雲が横たわり、皆既は観測されなかった。しかし、本影錐の移動は非常によく見えたということで、太陽高度の低い皆既日食では、曇られてもそれなりの楽しみ方はできることがわかる。全体に北の地方ほど雲が多かったよう

だが、南のモンテビデオでもコロナは見えなかったようである。

陸地で観測できるのはウルグアイだけ、と言われていたが、実際にはブラジルの南端も皆既帯に入る。しかし、日食当日の天候は最悪で、サンタ・ヴィトリア付近では雨にたたられたということだ。

#### < 船上観測 >

海軍天文台の回報で触れられていた観測船は、今回は出なかったようである。やはり真冬の南大西洋の波の荒さが原因だろう。

#### < 航空機観測 >

航空機による観測では、実績のあるサイエンス・エクスペディションズ社の南アフリカからの飛行計画が、参加者が集まらずに中止になった。アメリカの景気の悪さを反映したできごとである。一方、アマチュア・アストロノマーズ社の計画したリオデジャネイロからの飛行計画は、別稿のようにDC-10に45名の観測者を乗せて、12000m上空から6分20秒の皆既を観測した。

また、リオデジャネイロ市の後援でプラネタリウム関係者・報道関係者・学校関係者・一般市民等、約80名を乗せたB-737が飛び、高度11000mから5分5秒の皆既を観測している。さらに、20人乗りの小型ジェット機も飛んで、B-737と同空域で観測を行っている。

1月の金環日食も含めて、最近は条件の悪い日食でもツアーができて、参加者も結構多い。今回の皆既については、かなり条件が悪いという情報が行き渡っていたと思うが、1月の金環について、一部の旅行社はその手配や観測条件において、ツアー参加者の間に行き違いがかなりあったようだ。

昨年ハワイ・メキシコ日食あたりから、この種の話はよく聞くようになった。近ごろのツアー参加者は目が肥えてきている。今の日食のツアーは一昔前のように、やれば儲る、というものでない。普通の観光旅行を企画運営するよりも、ずっと面倒なものであることを、旅行社もわかりかけてきているのではないだろうか。